

西崎つばさレポート

2021 年 3 月 30 日 発行

編集部：〒152-0002 目黒区目黒本町 6-15-3
TEL 090-1796-5099 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com



子どもを事故から守るために。

日本では「不慮の事故」が1歳以上の子どもの死因の上位を占めています。ただ、それらは本当に全てが「不慮」なのでしょう。

避けられない事故は確かに存在しますが、本来は防げた事故で怪我を負ったり命を失う子どもを減らし、守っていくのは**大人の責任**です。

今回は、子どもの事故予防を取り上げます。

■ 食品による死亡事故が連続発生

昨年2月には松江市の認定こども園で、節分の豆を喉に詰まらせた4歳児が死亡。また、9月には八王子市の幼稚園で、同じく4歳児が給食の大粒ブドウによって窒息死しています。

どちらも、内閣府の定める**ガイドライン**を徹底すれば防げた可能性のある、悲しい事故でした。



◇ 目黒区でも「節分リスク」

松江市で発生した事故の1か月後に、私が目黒区立保育園の節分行事の状況を調査したところ、**本物の豆を撒いたり食べさせている**ことが判明し、議会で改善を求めました。

一方、政府も今年の1月20日に、**5歳以下の子どもには硬い豆やナッツ類を食べさせないよう**、全国の自治体に注意喚起を行いました。

これらの動きを受け、124年ぶりに2月2日となった今年の節分では、区立保育園は**実際の豆を扱わない**ことになりました。(同様に、区立こども園と幼稚園でも提供が見送られています。)

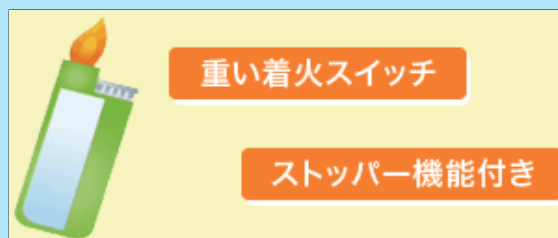
日本の伝統を学ぶことは大事ですが、**命の危険**と引き換えにするべきではなく、現実的な対応が取られたと言えます。

■ 他にも様々な危険が存在

食品以外にも、子どもの事故リスクを検証する動きが広がっています。学校の組体操の見直しや公園遊具の安全基準など、公で対応すべきものもあれば、以下のように民間が取り組むべき分野もあります。

◇ 製品やサービスの見直し

例えば、火を点けるライター。最近は目にする機会も減りましたが、2011年からは、子どもが簡単に操作できない「**チャイルド・レジスタンス (CR)**」機能が必須となったことは、多くの皆さまがご存知かと思います。



※1

<裏面に続く>

いつの間にか、子ども服にも変化が起こっていた!?

皆さまのご意見をお寄せ下さい! office@n283.com

西崎つばさ
プロフィール

37歳、3児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舫秘書。目黒区議会議員2期。2021年7月の都議選で、立憲民主党の公認が決定。

また、**子どもの服**も、フードが引っかかって首が絞まったり、腰回りの紐が自転車のタイヤに巻き込まれるなどの危険が問題視され、2015年に**JIS規格**が定められました。

JIS L4129 による安全基準の例



※2

さらに、**医薬品の誤飲**も問題となっています。2014年の1年間に、5歳以下の子どもが誤って医薬品を飲み込んでしまった例は8,433件あり、うち849件で何らかの症状が発生しています。

消費者安全調査委員会は2015年、子どもが開封しにくい**チャイルド・レジスタンス (CR) 包装**を導入するよう厚生労働省に提言しましたが、メーカーのコスト増や、高齢者などが開けづらくなる可能性が指摘されており、基準の制定には至っていません。

最近では2019年に、**ベビーベッド**の収納扉に乳児の頭が挟まって窒息し、死亡・重体に陥った事故が**2件続けて発生**したことから、同年11月に安全基準が強化されています。

窒息事故の再現イメージ ※3

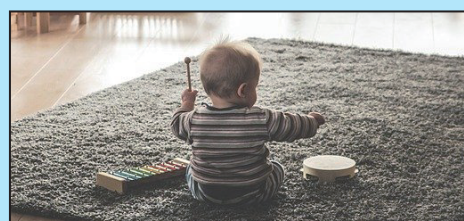


なお、このベッドや上記の子ども服が現在でも一般に販売されている事態は考えにくいですが、フリマアプリやレンタルでは、基準外の商品が流通している可能性があり、注意が必要です。

◇ 子どもは「小さな大人」ではない

こうした事故予防には、子どもの体型や運動能力は勿論のこと、**遊びや探索といった行動特性**を踏まえる必要があります。

大人の目には不合理に見える行為も、そもそも全てを抑止することは不可能ですし、子どもにとっては**成長や発達のための正常な行動**であると受け止めて、対策を講じる視点が欠かせません。



■ チャイルド・デス・レビュー

政府は、2018年に成育基本法、2019年に死因究明等推進基本法を制定し、子どもの傷害を予防する包括的な取り組みとして、**子どもの死因究明「チャイルド・デス・レビュー (CDR)」**の制度化を開始しました。

これは、**あらゆる子どもの死亡事例を検証し**、今後の効果的な予防策を図るもので、米国では約40年前に始まっています。専門家を交えた検討や提言によって、**将来の子どもの死亡を減らすこと**が期待されています。

子どもの事故予防の考え方は、時代と共に変化しています。ポイントは、**根性論や保護者の責任**などに矮小化するのではなく、**科学的・客観的に**事故を防ごうとする考え方にあります。

私自身も3男児というリスクの塊を育てている最中ですが、子どもを危険から守るための着実な施策を研究し、引き続き提言に繋げてまいりたいと思います。

(出典)

※1：東京くらし WEB「ライター取り扱いに注意！」(2017.3.9)

※2：経済産業省「その服、4129ですか？」(2016.4.26)

※3：消費者庁「0~1歳児のベッドからの転落事故に御注意ください！」(2020.11.13)

お知らせ：LINE公式アカウントに、ぜひご登録ください！



ご意見やご相談など、メッセージをお待ちしています！

登録はこちら

